

国際帝国主義の侵略反革命・第三世界支配を粉碎し、全世界の帝国主義を打倒せよ！世界プロレタリア革命－世界プロレタリア独裁－共産主義を実現する新しいインターナショナル（世界単一党）を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

6月政治アピール

P2~4

沖縄現地闘争報告

P5~10

メーデー報告

P11~12

1997年
6月1日
第503号
編集発行人 海路 薫
一部 200円

烽火

共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19
明豊ビル401号 大労協内
TEL(06)371-3706
○郵便振替 00930-0-63333
○銀行口座 第一勧銀 551-1058150



全国からの結集で組織された国際反基地行動（5月14日）

7月ARF粉碎闘争へ

これらの日帝一橋本政権の攻撃と総対決し、とりわけガイドライン改定から有事立法制定・改憲を阻止するための全人民的な闘争を組織する準備を開始していかねばならない。このたたかいと開始された反基地国際共同闘争を固く結合させ、有事立法と改憲をめぐる歴史的な闘争を國際主義をもって領導していかねばならない。アジア共同行動は、開始された反基地国際共同闘争を沖縄－「本土」を貫いて発展させ、ガイドライン改定から有事立法制定・改憲を阻止するための総力をあげた闘争を切りひらいていくものとして組織されていこうとしている。このたたかいを断固として支持し、その最先頭でたたかい抜こう。

全国のたたかう労働者人民の皆さん！五月一四日から一五日を中心とした沖縄現地闘争は、米軍用地特措法改悪を厳しく弾劾し、いささかも届することなく米軍基地撤去に向けてたたかう反戦地主会をはじめとした沖縄人民の決意を日米帝にたたきつけた。そして、沖縄－「本土」－韓国－フィリピンを貫いて組織された反基地国際共同闘争は、アジア人民の連帯をもって日米安保と対決し、アジアから米軍基地をたたかだしていくための国際共同闘争の偉大な前進を切りひらいた。

他方で日米帝は、いよいよ九月の日米安保協において日米防衛協力ガイドラインの改定を強行し、朝鮮半島を当面の焦点としつつ、アジア太平洋全域での日米共同作戦体制を確立していくこうとしている。それは、ただちに有事立法の制定と直結する。防衛省は、すでに来年の通常国会に有事立法を上程することを明らかにしている。さらに五月二三日には、自民・新進・民主・太陽・さきがけの各党の議員の参加によって「憲法調査委員会設置推進議員連盟」が発足し、国会に「憲法調査委員会」を設置するための国会法改悪案を今通常国会に提出しようとしてきた。米軍用地特措法改悪を強行した日帝は、ついに有事立法制定から改憲に突き進もうとしているのだ。これらと並行して、今国会では労基法の「女子保護規定」の撤廃、健康保険法の改悪、介護保険の導入、児童福祉法の改悪などが推進され、七月には労基法の全面改悪に向けた骨子までが公表されようとしている。

アシア共同行動日本連が総決起

●六月政治アピール

沖縄現地闘争の地下を引きつき 六月アジア共同闘争に決起せよ

すべての労働者・学生諸君! 五月一四日から一五日を中心とした沖縄現地闘争は、米軍用地特措法改悪をもって何としても米軍基地を維持しようとする日帝に対する非妥協的な闘争として、またガイドライン改定をもってアジア太平洋全域における日米共同作戦体制を確立しようとする日米帝に対する闘争として、そして何よりも反基地国際共同闘争の大な前進を切りひらく闘争として、巨大な勝利をたたかい取った。このたたかいを一〇〇人にのぼる部隊で担い抜いたアジア共同行動日本連は、六月アジア共同行動においてこの反基地国際共同闘争の地平をさらに発展させ、ガイドライン改定から有事立法制定・改憲に突き進む日帝・橋本政権との総力をあげた闘争に向かうことを呼びかけている。われわれは、このたたかいを断固として支持し、その成功のために奮闘することを呼びかける。

前進する反基地アジア共同闘争

五・一四～一五沖縄現地闘争は、一昨年の米兵による少女強姦事件を契機とした沖縄「本土」における基地と安保に反対する巨大なたたかいの集約環として、反戦地主を先頭に沖縄「本土」－アジアを貫いて大爆発した。

不屈のたたかい

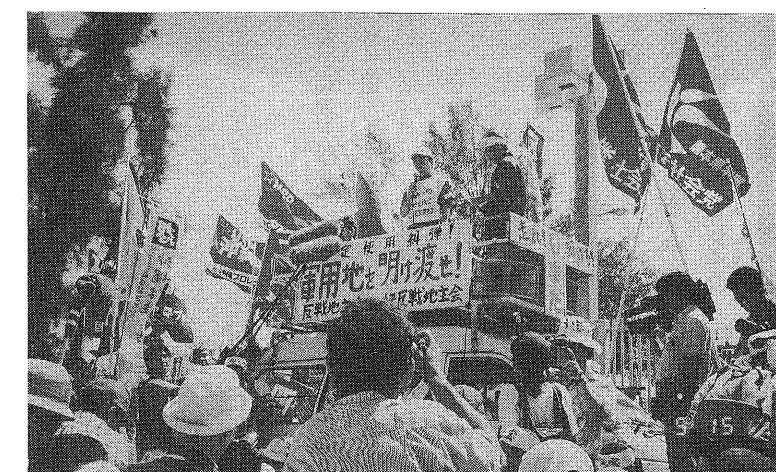
貫く反戦地主会

この闘争の第一の意義は、日帝の特措法改悪に屈することなく、断固として基地の立ち入りと強制使用阻止・基地撤去を要求するものとしてたたかい抜かれたことであった。一五日朝から嘉手納基地第一ゲート前で組織された立ち入り要求行動において、反戦地主・一坪反戦地主を先頭とする沖縄人民は、四月一七日の照屋秀伝・反戦地主会長、知花昌一さんの不当逮捕に示されるような弾圧に決して屈せず、たたかう反戦地主、沖縄人民の姿を全世界の労働者人民に知らしめたのである。このたたかいに恐怖する日帝・防衛施設局は、機動隊を配置して反戦地主の基地立ち入りを阻止し、要請文の受け取りすらも拒否した。しかし、どのような弾圧

も沖縄人民の基地撤去に向けた闘争をもはやおじとどめることはできない。反戦地主会・一坪反戦地主会は、引き続き収用委員会の公開審理において強制使用の不当性を徹底して批判しつつ、海上基地建設をはじめとした基地の県内移設に反対する各地のたたかいと結合して、基地全面撤去に向けた闘争をさらに推進していくこうとしている。

この闘争の第一の意義は、ガイドライン改定をもってアジア太平洋全域における日米共同作戦体制を確立しようとする日米帝、そして有事立法制定から改憲に突き進もうとする日帝との断固たる闘争として組織されたことであった。

一五日の立ち入り要求闘争などあらゆる機会に反戦地主・一坪反戦地主会が鮮明に提起したよう、沖縄からの米軍基地撤去は日米安保体制を打ち破っていくしかない限りありえず、米軍用地特措法改悪は有事立法の先取りにはかならない。たたかう沖縄の労働者人民は、日米安保体制と対決し、さし迫る有事立法制定・改憲をめぐるたたかいの先頭を担う決意を固めている。この現地闘争を通して、これから開始されていく有事立法制定・改憲阻止に向けた大闘争とともにたたかい抜く沖縄「本土」の労働者人民の結合が打ち固められた。



基地立ち入り要求闘争で決意表明する照屋反戦地主会会長（5月15日）

国際共同闘争に 全国から総結集

この闘争の第三の意義、何よりも重要な意義は、このような一四～一五日のたたかいが沖縄「本土」－韓国－フィリピンを貫くアジア人民の反基地国際共同闘争として取り組まれたことにある。

沖縄ではこの間、アジア共同行動日本連に参加する「アジアと連帯する沖縄集会実行委員会」を中心として、九一年に米軍基地撤去をかち取ったフィリピン人民との交流が進み、今年二月の第一回公開審理には韓国の反基地運動代表四人が訪沖し、反戦地主や一坪反戦地主の広範な参加によって韓国・沖縄反基地交流会が開催された。そしてこの五月に、沖縄－韓国の反基地共同闘争、共同声明、反基地国際シンポジウムが打ち固められた。

烽火

ムなどを進めることが確認されたのである。この地平に立って、沖縄では反戦地主会会長の照屋秀伝さん、アジアと連帯する沖縄集会実行委員の一人である島田正博・那覇市議の三人が最初の呼びかけ人となつて「沖縄・韓国反基地行動委員会」が結成され、五月一四日午後一時から沖縄市営運動公園で「韓国そしてアジアの人々とともに、国際反基地行動」がたたかいに連携して韓国ではソウルで国際シンポジウムが開催され、仁川(ニンチョン)・大邱(テグ)・平澤(ピヨンテク)の三カ所で米軍基地ゲート前集会やデモが行われた。またフィリピンでもBAYANによって米大使館への抗議行動が行われた。そして一四五日のたたかいでは、あらゆる場所で韓国やフィリピンの闘争が反戦地主や一坪反戦地主によって感動的に語られていったのである。

日米安保体制の巨大な壁に直面してきた沖縄の反基地闘争にとって、開始された反基地国際共同闘争は「新たな勝利への希望」(知花昌一さん)にほかならない。ますますアジア太平洋全域における日米帝の支配の基軸として再編されていく日米安保体制に対してアジア人民の連帯をもつてたたかい、アジアから米軍基地をたきだしていくたたかいのなかにこそ、いかに長期にわたるうとも勝利への大道があること、このことが先進的な沖縄人の深い確信になりつつあるのだ。

同時にこの反基地国際共同闘争は、先進的な沖縄人民にとって、決して基地のもとで苦しむ被害者同士の連帯としてのみとらえられているのではない。反戦地主や一坪反戦地主会が現地闘争のなかで何度も強調してきたことは、沖縄の人民もまた第二次大戦において日帝のアジア侵略戦争に動員され、戦後もまた沖縄を出撃拠点として朝鮮半島やベトナムに米軍が出撃し、アジア人民を殺りくすることを阻止できることであった。先進的な沖縄人民は、いま反基地国際共同闘争を通してこのアジア人民への加害者となることを強制されてきた歴史をくつがえし、日米帝のアジアへの侵略や支配とたたかうことをもつて「アジアの人たちと喜怒哀楽をともにできるような関係をつくりだす」(照屋秀伝・反戦地主会会長)ことをめざそうとしている。

このように米軍基地撤去に向けた共通の敵に対する共同の闘争と日米帝によるアジアへの侵略・支配に反対する闘争を結びつけて推進していることによって、先進的な沖縄人民が切りひらいてきた高い政治的水準がある。自らの土地からアジア人民を殺りくするために爆撃機が飛び立つのを目の前にして、「戦争の被害者にも加害者にもならない」とアジア人民との連帯のスローガンを掲げてきた反戦地主、

そして沖縄人民は、こうして五月一四五日の中止を通じてアジア人民の国際共同闘争へとさらに大きく踏みだしたのである。

そしてこの五月一四五日のたたかいは、沖縄のみならず「本土」における反基地反安保基地行動には、反基地国際共同闘争を貫して推進してきたアジア共同行動日本連だけではなく、「本土」から沖縄現地闘争に参加した労働者人民の過半を越える部分が集結した。この集会において照屋秀伝・反戦地主会会長は、「アジアの人たちと喜怒哀楽とともににする関係をつくることは沖縄だけではできない、これはアジアを侵略・支配してきた日本をかえるたたかいだ」と宣言した。まさにこの沖縄現地闘争は、アジア人民との国際共同闘争を推進するこ

とを通して、沖縄・「本土」を貫いて国際主義にもとづいたたかいへとこれまでの反基地反安保闘争を変革していく巨大な一步を切りひらいたのである。われわれはいま、日米防衛協力ガ

イドライン改定をもつて有事立法制定・改憲に突き進もうとする日帝・橋本政権との歴史的なたたかいを組織していかねばならない時を迎えている。このたたかいのただなかにおいて、アジア人民の反基地国際共同闘争をさらに大きく前進させ、沖縄・「本土」を貫いてガイドライン改定・有事立法制定・改憲を阻止するための全人民的なたたかいを国際主義をもつて領導していくこと、五月沖縄現地闘争の偉大な成果はこのたたかいへとさらに発展させられていかねばならない。

反動的役割担う ★ 社民党と革マル ★

このようなたたかいの前進の一方で、社民党・革マル・連合は反戦地主を先頭とする基地立ち入り闘争から完全に脱落し、反動的に結束して反戦地主らのたたかいに敵対するという犯罪的役割を果たした。これらの部分は、反戦地主会などの立ち入り要求闘争に和平行進を対置し、違憲共同闘争が反戦地主会や一坪反戦地主会と共同行動を取ることを阻止した。さらには五月一五日夜の平和運動センター主催の「県民大会」では、反戦地主会、一坪反戦地主会の発言は最初から予定されず、違憲共同闘争の発言も「時間がない」との理由で打ち切られたのである。そればかりか、「主催者以外は、ビラまき、旗、ゼッケン、横断幕は認めない」「サンガラス、マスクの着用は認めない」との信じがたい統制を受けたのである。これらを通して社民党・革マル・連合は、平和行進に参加した沖縄・「本土」

のぼう大な労働組合・労働者と反戦地主の闘争を切断し、安保容認の枠内に労働者人民のたたかいをおし止めようとしたのである。

他方で反戦地主会のたたかいを支持する側に立った諸党派もまた、その誤りや限界を明らかにした。日本共産党は、反戦地主会を先頭とした一四五日夜の県民総決起集会や一五日の立ち入り要求闘争への大衆運動を放棄し、現地闘争から召還した。そのことは、対米従属論にもとづき日帝との正面からの闘争を否定する日共の誤りの反映である。また沖縄の「独立・自立」論を無前提に主張する現代カウツキー主義は、沖縄・「本土」そしてアジアを貫く反基地国際共同行動へと前進しようとする沖縄人民のたたかいでいくことしかできなかった。他方で急進民主主義諸派は先進的な沖縄人民による反基地国際共同闘争を支持しつつも、アジアにおける国際的な反帝政治統一戦線の建設と共産主義運動の再建に首尾一貫した責任を取ることができないという反スター国主義の限界ゆえに、日共に対する戦術左派の位置を突破できない姿を示した。これらの諸派は、「沖縄人民の自決権を承認せよ」、「軍用地実力奪還」などと主張するのみで、実践的に何ら沖縄のたたかいの展望を示すことができなかつた。

このようななかで、われわれ共産同(全国委員会)は反基地国際共同闘争を切りひらこうとした先進的な沖縄人民のたたかい、これに連帯して沖縄・「本土」-アジアを結ぶ反基地反安保闘争を全力で推進したアジア共同行動日本連のたたかいを断固として支持し、その成功のために全力を尽くしてきた。それはまさに、世界の再建に向けてアジア共産主義党協議会の建設のためにたたかい、反帝アジア人民政治統一



反戦地主先頭に国際反基地行動を貫徹 (5月14日)

戦線の建設を推進してきた党だからこそ担うことができた、プロレタリア前衛党としての総力をあげたたかいであった。そして、この全過程を通してわれわれは、沖縄－「本土」を貫くわが国の階級闘争全体のなかにより領導的な位

置を築きあげ、他にかわるものがない責任を今や引き受けつつある。このことを深く確信するからこそ、われわれはこの五月における闘争の成果をさらに発展させていくためのたたかいを全力で推進していく決意である。

ガイドライン改定を粉碎せよ

米帝・EU帝との激しい帝国主義間抗争に直面している日帝は、アジアを支配する帝国主義への飛躍をかけて、いま日米防衛協力のための指針（ガイドライン）の改定をおし進めている。四月二十五日、橋本は特措法改悪を手土産に訪米し、クリントンとの首脳会談において日米安保共同宣言にもとづく日米安保のアジア太平洋・ラインの改定をさらに促進していくことを確認した。そして六月上旬にも、ガイドライン改定の中間報告が公表されようとしている。

このガイドライン改定は、「日本は、憲法の制約の中で何ができるかではなく、有事に何をすべきかを先に考えるよう発想を変えるべきだ」との立場から、日本からの米軍の出撃ばかりではなく、補給、輸送の後方支援や自衛隊による機雷掃海などこれまで「集団的自衛権」だとして禁止されていた領域にまで踏み込もうとするものである。それは、朝鮮半島を当面の焦点としつつ、アジア太平洋全域における日米共同作戦体制の確立を狙うものにはならない。すでに政府は、四月に紛争相手国の部隊の動きなどを自衛隊が収集した軍事情報を米軍に全面的に提供するとの方針を打ちだし、防衛庁もこの五月に日本周辺有事を想定した一三分野・三六項目の対米軍支援の検討を明らかにした。ここでは、成田、関西、那覇など十三の民間空港や大阪、神戸、福岡など七港湾の施設の米軍への提供、

米軍基地従業員の増強、対潜水艦用武器、機雷掃海具、弾薬の米軍への補給などが詳細に列挙されている。さらに防衛庁は、有事におけるACSA協定の締結をめざすことまで表明するに至っている。

また、現行ガイドライン締結時に合意した「立法、予算、行政上の措置を義務づけない」との前提条件を削除し、防衛庁は来年の通常国会に有事における物資収用や土地使用などをはじめとした有事立法を法案として上程する準備を進めている。有事立法の制定こそ、労働者人民を侵略反革命戦争へと総動員するための決定的な攻撃である。

全国・各地でアジア共同闘争へ

日米防衛協力ガイドライン改定をもっていよいよ有事立法制定・改憲に突き進もうとする日帝一橋本政権に対しても、総力をあげてこれを阻止するための歴史的なたたかいの準備を開始しなければならない。その時、この五月のたたかいをもってかち取られたアジアにおける反基地国際共同闘争、そして沖縄－「本土」を貫いて組織されたアジア人民に連帯し、反日帝を内包した国際主義的な政治闘争を発展させていくことは決定的に重要な戦略的位置を持っている。

それは、戦後反戦平和闘争の一国主義的限界とそれゆえの崩壊を突破し、沖縄－「本土」において労働者人民を日帝の排外主義攻撃から分離させ、日帝との正面戦に決起させていくための大いな水路となるからにはならない。アジア共同行動日本連と各地方実行委員会は、五月沖縄現地闘争の地平に立脚しつつ、六月アジア共同行動の組織化に全国各地で向かっている。われわれは、このたたかいを断固として支持し、すべての労働者人民が六月アジア共同行動に決起することを呼びかける。

先進的労働者人民はこのたたかいを通して、まず第一に、五月の反基地国際共同闘争の地平を全国・各地方において鮮明にうちだし、このもとに広範な労働者人民の結集を実現していくねばならない。韓国で八月に予定されている反基地国際シンポジウムへの沖縄－「本土」からの結集をも射程に含めつつ、アジアから米軍基



アジア共同行動日本連の全国交流会に参加した知花さん(5月15日)

そしてこのような情勢のもとで、改憲攻撃もまた急速に強まっている。自民、新進、民主、太陽、さきがけ各党の議員によって、五月二三日に「憲法調査委員会設置推進議員連盟」が結成され、衆議院ではすでに過半数を越える議員が参加している。この議員連盟は、国会の常設委員会として憲法調査委員会を設置するための国会法改定案を議員立法として今国会で成立させることを画策してきた。同連盟の設立趣意書では、憲法第九条の改悪に直接触れてはいない。しかし、中山太郎、愛知和男、中曾根康弘など札付きの改憲論者が顔を並べ、中曾根が「国際紛争で日本が軍事的貢献をすべきだという方向へ、国民意識が変化してきている。いまわれわれ（改憲派）が出ていくときだ」と述べているように、それは明らかに侵略反革命戦争を遂行できるよう憲法前文や第九条の改悪を意図するものである。いよいよ日帝ブルジョアジーは明文改憲に一挙に突き進もうとしているのだ。憲法調査委員会設置のための法案の今国会上程は、自民党内の調整のために見送られた。しかし、次期国会に再びこれが上程されようとすることは必至である。

そこでこの情勢のもとで、改憲攻撃もまた急速に強まっている。自民、新進、民主、太陽、さきがけ各党の議員によって、五月二三日に「憲法調査委員会設置推進議員連盟」が結成され、衆議院ではすでに過半数を越える議員が参加している。この議員連盟は、国会の常設委員会として憲法調査委員会を設置するための国会法改定案を議員立法として今国会で成立させることを画策してきた。同連盟の設立趣意書では、憲法第九条の改悪に直接触れてはいない。

しかし、中山太郎、愛知和男、中曾根康弘など札付きの改憲論者が顔を並べ、中曾根が「国際紛争で日本が軍事的貢献をすべきだという方向へ、国民意識が変化してきている。いまわれわれ（改憲派）が出ていくときだ」と述べているように、それは明らかに侵略反革命戦争を遂行できるよう憲法前文や第九条の改悪を意図するものである。いよいよ日帝ブルジョアジーは明文改憲に一挙に突き進もうとしているのだ。憲法調査委員会設置のための法案の今国会上程は、自民党内の調整のために見送られた。しかし、次期国会に再びこれが上程されようとすることは必至である。

沖縄・韓国・アジア反基地共同闘争

反戦地主を先頭に闘争を断固貫徹 アジア反基地共同闘争の前進刻印

五月一四日から一五日にかけて、特措法の改悪を強行し、反戦地主の土地を強奪し、沖縄に永続的に米軍基地をおしつけようとする日帝・橋本政権に対する沖縄と「本土」の労働者人民の怒りが爆発した。反戦地主を先頭として沖縄現地に結集した数千人の労働者人民は、軍用地の明け渡しと基地の撤去を求めて断固として闘争を貫徹した。この沖縄でのたたかいは、沖縄人民の願いとは裏腹に日米安保体制を強化し、有事立法制定・憲法改悪へと突き進もうとする日帝・橋本政権との正面から対決するたたかいであった。

同時にこのたたかいは、韓国・フィリピンでの闘争と結合したものとしてたたかいとられた。それはアジアにおける反基地共同闘争の歴史的な前進をはっきりと刻印し、反基地闘争の新たな発展方向を鮮明にさせ示した。

アジア共同行動日本連絡会議は、現地で奮闘する「アジアと連帯する沖縄実行委員会」を先頭に、さまざまな労働組合・市民運動・学生運動からなる一〇〇名の現地闘争団を派遣し、沖縄人民とともにこの歴史的なたたかいを最後までともにたたかい抜いた。

五・一四 国際反基地共同行動

反基地闘争の新たな発展方向示す 韓国・フィリピンでも同時決起！

人が結集した。

この日、時を同じくして韓国においては、仁川、平澤、大邱の三都市で在韓米軍基地を包囲する集会やデモが取り組まれ、フィリピンにおいては沖縄と韓国のたたかいに連帯する米大使館への抗議行動が行われた。沖縄での「国際反基地共同行動」は、こうしたアジアにおける反基地国際共同闘争の一環として取り組まれたものである。

沖縄人民を先頭としたこの間の反基地闘争は、日米安保体制を揺るがすまでに巨大な前進をかちとつけてきた。そのたたかいのただなかにおいて、沖縄では「アジアと連帯する沖縄集会実行委員会」をはじめとして、自らのたたかいをアジア人民と実践的に連帯するものへと発展させ



アジアの仲間との連帯を！と訴える照屋秀伝さん（14日午後）



嘉手納基地第二ゲート前に向けてデモ行進（14日午後）

沖縄・韓国反基地行動委員会の呼びかける「韓国そしてアジアの人々とともに、国際反基地共同行動」が、一四日午後一時から、沖縄市営運動公園において行われた。このたたかいには沖縄と「本土」から約七〇〇人が結集した。

るべく、フィリピンや韓国の反基地運動との交流と連帯が重ねられてきた。そのなかで今年二月に、韓国の反基地運動の代表団四三人が来沖し、公開審理闘争とともにたたかう起に応えて照屋秀伝・反戦地主会会

歌手であり一坪反戦地主でもある

まよなかしんやさん、一坪反戦地主の松田貴子さんの司会で進行したこの取り組みは、歌とアピールを交互にまじえながら約三時間にわたって行われた。

長、島田正博・一坪反戦地主会代表世話人、西尾市郎・アジアと連帯する沖縄集会実行委員会の呼びかけによつて「沖縄・韓国反基地行動委員会」が結成された。この日の「国際反基地共同行動」は、こうして自らのたたかいを国際主義的に発展させようとする沖縄人民の努力が結実したものであった。それはこの間語られたきた「被害者にも加害者にもならない」という立場を、日米のアジア支配の要である日米安保体制と在アジア軍基地をアジア人民との共同闘争で打ち破っていく実践へと転化するという反基地闘争の新たな前進をはっきりと刻印し、たたかいの新たな発展方向を鮮明にさし示すものであつた。



2000人が参加した14日の県民集会（沖縄市民会館）



特措法改悪糾弾/軍用地を明け渡せ/のショプレヒコール(14日・県民集会)

さんが自作の歌で反基地の思いを訴えた。知花昌一さんは、三線を手に自作の口説（クドウチ）や「沖縄を返せ」を歌い、また四月の特措法国会における不当逮捕を弾劾し、「沖縄はまだ私たちの手に返ってきていない」と訴えた。

反戦地主会・北部ブロックの安次富浩さんは、新たな基地の建設である海上ヘリポート建設を断固として阻止する決意を明らかにした。

五・四 県民集会

主義者同盟) と C.P.A (コルディレラ人民同盟)、台湾の労働人権協会の連帯メッセージ、そして韓国の金容漢さんからの檄文が実行委員会の仲間にあって紹介された後、この日の行動の呼びかけ人全員が壇上にならび、「人権をふみにじり、生命を脅かす米軍は出ていけ! 反戦地主の権利を守り、軍用地の強制使用に反対しよう! 國際的な連帯を強め、アジアから米軍基地を撤去しよう!」という沖縄・韓国・フィリピンの共同声明が日本語と朝鮮語で読み上げられた。この共同声明につけられた韓国側の前文を読み上げた在日韓国人の活動家は、「一〇〇年間の日本による帝國主義侵略とアメリカのアジア支配に苦しめられてきた一人間として、私は今日この沖縄の地に立つて、やはり激しい怒りを感じてい

ます」と前置きした上で声明文を読み上げた。

害者にも加害者にもなりたくない」と語り、アジアの人々とともに、アジアから米軍基地を撤去しようと訴えた。

池原秀明・反戦地主会事務局長による「団結ガンバロー」の後、参加者は嘉手納基地第一ゲートまでのデモンストレーションにうつった。

「軍用地を反戦地主に返せ!」「アジア人民との共同闘争でたたかうぞ!」「アジアから米軍基地を撤去しよう!」「国際連帯をかちとるぞ!」

というシユプレヒコールが響きわたる。こうして参加者は、この日の取り組みがアジア規模での共同闘争としてたたかわれていることの意義をかみしめ、国際連帯の推進を誓い、たたかいの新たな発展を決意して最後までたたかいた。

のあいさつの後、主催者を代表して照屋秀伝・反戦地主会会长が発言に立った。照屋さんはまず特措法改悪の強行とその時の自らを含む二人の不当逮捕を糾弾した。そして「明日は堂々と胸をはって第一ゲートから自分の土地に入りたいと思う」と語り、割れんばかりの拍手につつまれた。また照屋さんは沖縄の米軍基地が侵略戦争の前線基地として機能してきたことに触れ、「私たちは戦争の被害者にも加害者にもなりたくない。軍事基地を撤去し、アジアの人たちと喜怒哀楽とともにできるような関係をつくりたい。これは日本を変えるたたかいだ。沖縄、日本を変えるためにともにがんばりましょう」と力強く訴えた。

続いて各団体の決意表明が行われた。一坪反戦地主会代表世話人の新崎盛暉さんは、「島津の琉球侵略、明治の琉球処分、今回の特措法改悪はいずれも沖縄、あるいは日本にとっての大きな転機となつたが、今はそれまでとはちがつて沖縄にたたかう主体が登場している。特措法は



嘉手納基地に向かって怒りのシュプレヒコール(15日)



反戦地主を先頭に米軍司令部までデモ行進(15日)

「きだ」と述べ、今日のたたかいを第一歩として、さらに基地と安保をなくすまでたたかい抜こうと訴えた。反戦地主会弁護団の代表である阿波根昌秀さんは、「日本政府による特措法改悪と照屋さん・知花さんらの不当逮捕は沖縄の怒りをさらに深く蓄積させた。それはさらに大きなかいとして爆発するだろう」と語り、まともな審議もないままに強行された特措法の改悪を糾弾した。そして反戦地主とともに収用委員会闘争をはじめとするこれからたたかいを全力でたたかっていく決意を表明した。行動する女たちの会を代表して発言した石川吉子さんは、特措法改悪は二一世紀の子や孫の世代まで沖縄の土地を戦争のために使おうとするものであり、軍国主義の復活を導くものであると批判した。さらには新市町村会の新川秀清さんの連帯発言をはさんで市民・大学人の会の米盛裕二さんの決意表明が続いた。

連帯のあいさつでは違憲共闘会議議長の有銘政夫さんとヘリポートいらない名護市民の会の許田清香さんが発言した。有銘さんは「沖縄戦から五二年間たたが、沖縄の戦後はまだ終わっていない」「日本政府は追いつめられたあげく特措法を改悪した。しかしどうしようもなくなつたら法を書きかえればいいと言った法治国家が世界のどこにあるか。またそれをゆるす民衆がどこにいるか。私たちのたたかいが問われてい

る。政府は特措法改悪の上にあぐらをかいているつもりだろうが、そこが針のむしろだということを知らしめようではないか」と集会参加者に檄を発した。そして日米政府がすすめようとするガイドライン改定・有事体制づくりに対するたたかいは沖縄だけでなく、全国的な課題であり、日米安保とたたかうためのスクラムを組み、そのたたかいの火蓋を切ることを宣言しようと訴えた。また名護市民の会の許田さんは、「普天間基地の返還が発表されて喜んだのもつかの間、その条件は県内移設と決まりました。大田知事は移転先の候補地として中城湾があげられたときは反対したが、キャンプ・シュワーブ沖

については県とは関係ないという対応をとり、かわりに国際都市形成構想という蜃気楼のような計画をもちだしている」とSACO報告の欺ま

照屋秀伝さんの音頭での「团结がンバロー」が行われ、閉会のあいさつとして一坪反戦地主会事務局長の城間さんが、「今日の集会と明日の

「われわれの土地を返せ! 反戦地主はたたかうぞ! 軍事基地の撤去までたたかうぞ! 安保破棄までたたかうぞ!」反戦地主・一坪反戦地主約〇名をこえる労働者・市民・学生に三〇〇〇人の土地を「暫定使用」という名で強制使用しつづけようとして埋めつくされた。

五・一五 基地立ち入り要求行動

嘉手納基地ゲート前に千人が結集 軍用地強奪への怒りたたきつけ

一五午前一〇時、嘉手納基地第一ゲート前は、反戦地主会と一坪反戦地主会の呼びかける基地立ち入り要求行動に全国から結集した一〇〇〇名をこえる労働者・市民・学生に

伝会長が宣伝カーの上にのぼって発言する。「僕の土地はこのゲートから約一・五キロのところにあります。ここから歩いて三〇分程度のところだけれども、五二年立っても入れない。ここに立っていると僕たちをきつけられ、晴れわたる空の下で基地立ち入りと軍用地の明け渡しを求めるゲート前での集会が開始された。

た後、軍事基地の全面撤去、基地の再利用を反対、ガイドライン見直し・有事立法・憲法改悪阻止などを宣伝しようと訴えた。また名護市民の会の許田さんは、「普天間基地の返還が発表されて喜んだのもつかの間、その条件は県内移設と決まりました。大田知事は移転先の候補地として中城湾があげられたときは反対したが、キャンプ・シュワーブ沖については県とは関係ないという対応をとり、かわりに国際都市形成構想という蜃気楼のような計画をもちだしている」とSACO報告の欺ま

照屋秀伝さんの音頭での「团结がンバロー」が行われ、閉会のあいさつとして一坪反戦地主会事務局長の城間さんが、「今日の集会と明日の

すべての軍事基地の撤去までたたかう」と結ばれたアピールが採択された。

熱気さめやらぬままに終了し、参加者は翌日の基地立ち入り行動への決意を胸にいったんの帰途に着いた。

たたかいは今後のたたかいの出発点だ。われわれのたたかいの課題はふたつだ。ひとつは今軍事基地として使われている私たちの土地を取り戻すたたかい、もうひとつは新たな基地建設に反対するたたかいだ」「そもそもヘリポート基地建設に反対していきましょう」と訴えた。

一坪反戦地主会代表世話人である崎原盛秀さんは、「今日久しぶりこ

日本の政治に対する期待とか希望が何ひとつない。そのなかで自分たちでなんとかやっていこうという思いが今までできているのだと思います。もうひとつは、国際的な基地反対闘争の輪が広がっていることです。五年前にはこういうことはありませんでした。一五年目で私たちはやつと国際的な連帯を少しづつつくってきましたとおもいます。敵は沖縄にも、日本にも、韓国にも、フィリピンにも基地をつくり、そして各国の政府が一体になつて戦争体制をつくっています。それなのに基地をなくしていくことをいう民衆どおしの連帯がこれまでほとんどなかった。これだけの広がりをもつたたかいがつくれたのは、今年が初めてだと思います。二月の公開審理に韓国から多くの人が参加し、それに私たちも感動を受け、そのようにして昨日のような集会があ



三線を手に反基地の思いを歌う知花昌一さん（14日午後）



沖縄人民とともに現地闘争をたたかいぬいたAWC日本連

基地全面撤去への展望を確信
アジア人民とともにたたかう

「復帰二五年」で、これまでと何が違っているかというと、ひとつは沖縄のなかで独立ということが話題になり、それが心情的な賛同を得て大きく広がっているということです。これまでの一五年間をかえりみて、日本という国に本当にいていいのか、こんなことじゃだめだといふ思いが大きくわきあがっています。

てたと思います。
このふたつが「復帰」五年」を迎えての大きな変化だと思います。それに僕は大きな希望をもつています。僕は日本の政治状況がより悪くなるという危惧ももっていますが、それを越えて、日本がもっと良くなるような動きが大きくなっているのではないかという気がしています。少女の事件以来、これほど多くや新進党の議員が、特措法改悪に反対したからです。沖縄の人たちが「本土」の民衆のなかに入つて、沖縄の実情や基地の問題を訴えた時期はなかったと思います。二五年前も「本土」で大きな問題を訴えた時期はなかったと思います。たたかいがありました。今は沖縄や基地や安保の問題が根を張つていったのではないであります。四月一七日の参議院では、自民党や新進党の議員が、特措法改悪に反対したからです。

対する照屋さんたちを指さしてぶざけながら批判していました。そういうう連中が沖縄や日本の将来を決めようとしている。こうした政治状況をつくってきた社会をひっくり返すねぱり強いたたかいをしなくてはならないと思います。それはアジアを良くすることにもつながります。

沖縄では決して悲観的ではなくて、希望をもつたたかいが開始されてることを受け止めてくれたらと思います。私たち反戦地主は、どんな法律が適用されようとも、基地があるかぎりたたかい続けます。

(これは五月一五日に行われたアジア共同行動日本連絡会議との交流会のときの知花さんの発言を烽火編集局の責任でまとめたものです)

の地にたって、嘉手納基地の犯罪性をあらためて思い浮かべる。朝鮮戦争では、この基地が出撃基地となり、朝鮮民衆を虐殺していった。ベトナム戦争でもまたベトナム人民大量殺戮への出撃拠点となつた。枯葉剤もここから運ばれていた。アジアにとっては沖縄もまた加害者である。韓国・アジアの民衆とともに基地そのものをなくしていく」と述べた。

反戦地主会弁護団の池宮城弁護士の発言の後、違憲共闘会議議長で、嘉手納基地に土地をもつ反戦地主である有銘政夫さんが発言する。「今日ここに結集した意義は非常に大きい。今日は日本政府が反戦地主らの

土地を不法占拠した第一日目だ。基地機能は完全に止まっている。米軍自らがゲートをしや断しているではないか」「そして沖縄県警がそれを守っている。まさに日本政府が強奪した土地を、米軍に提供するという図式がありますところなく明らかになっている。そしてわれわれがそれと対峙していることははつきりと確認しよう」と政府による不法占拠を弾劾し、たたかいへの決意を表明した。

り要求に対し、対応に現れた米軍の広報担当者は「要請文は受け取らない。防衛施設局に渡してくれ」と通告しただけで立ち去ってしまった。こうした米軍の対応に対し、反戦地主をはじめとするゲート前に集まつた闘争参加者は断固たる抗議のシュプレヒコールを叩きつけた。

米軍の実弾演習の移設に反対してたたかう日出生台と北富士からの参加者の発言の後、池原秀明・反戦地主会事務局長が、米軍四軍調整官のいるキャンプ・バトラーの米軍司令部までのデモンストレーションを提起した。参加者は米軍と日本政府に

対する怒りをシユプレヒコールにかえ、米軍司令部のある北中城村石平まで、六キロにわたるデモンストレーションを断固として貫徹した。デモの到着地点である米軍司令部前で、あらためて軍用地の明け渡しを要求する要請文が読み上げられ、そして照屋秀伝さんの「絶対に屈することなく、すべての基地をなくすために、今日を新たな出発点として、さらにたたかいを前進させよう」という提起と「団結ガンバロー」によってこの日のたたかいは締めくくられた。

資料

基地撤去のための共同声明

五月一四日の「韓国そしてアジアの人々とともに、国際反基地共同行動」において発表された共同声明を資料として掲載します。三点のスローガンからなる部分が沖縄・韓国・フィリピンのそれぞれ団体の連名で発表された共同声明です。「沖縄からの声明」および「韓国からの声明」は、この共同声明にそれぞれかられた前文という性格を持ちます。また最後に掲載してあるのは、韓国の反基地活動家である金容漢さんから沖縄での取り組みに対する寄せられた檄文です。

なお韓国での取り組みには「沖縄・韓国反基地行動委員会」から一人が代表参加しました。

私たち、世界の人々に訴える。

- ・人権をふみにじり、生命を脅かす米軍は出ていけ！
- ・反戦地主の権利を守り、軍用地の強制使用に反対しよう！
- ・国際的な連帯を強め、アジアから米軍基地を撤去しよう！

一九九七年五月一四日

沖縄側の声明

一九九七年五月一五日、沖縄の「施政権返還」から二十五年、いったい何が変わっただろうか。「基地の島＝沖縄」の現実。この島はこれから

らも米軍（基地）によって支配される続けるのか。

米軍用地特措法の改悪が、反戦地主会・照屋秀伝さんと「象のオリ」・知花昌一さんの逮捕とひとつものであったことは、特筆すべきことだ。

「秀伝と昌一」は、日本という國の「地盜る！」を糾した。この逮捕を、「正当だ」と思うウチナーンチューはひとりもいない。「秀伝と昌一」は、沖縄そのものなのだ。沖縄が逮捕されたのだ。だから、「二五周年」という節目にもかかわらず、祝賀行事を行おうという雰囲気がまったくないのも不思議ではない。

二〇世紀は、目覚ましい科学技術の進歩の一方で、「戦争の世紀」と形容されるほど、人類がかつて経験したことのない血にまみれた殺戮の世紀であった。科学と軍事は表裏一体であった。劣化ウラン弾や実弾演習を例に出すまでもない。ここは、「戦場の島」。人間が人間であることが、今ほど問われている時はない。

戦争責任を居直り、PKO＝海外派兵をはじめた日本に対して、天皇制国家の侵略の再来だと、アジア人民は見抜いている。沖縄もまた天皇制国家に組み込まれ、アジア侵略に突撃した歴史は事実、アジア人民にとって、我々は「東洋の鬼」なのだ。

しかしだからこそ、日米両政府に對してその足元から、安保を破棄し、基地の撤去を求める沖縄の闘いに、アジア一全世界が注目している。この時に、韓国の反基地運動からの提案を受けて、国際的な連帯を結び、共同声明を出すことができるのか、画期的なことである。

沖縄は、△改悪特措法▽を拒絶する。日米両政府は、五月十四日の期限切れをもって、反戦地主の土地を明け渡せ！
諸国民を引き裂く対立と戦争にかえて、連帯と友情を！
基地を撤去するまでともに闘おう！



アジア反基地共同行動の発展を！(14日の国際反基地共同行動)



前進する韓国の米軍基地返還運動(写真は昨年8月のソウルでのデモ)

沖縄・韓国反基地行動委員会
わが地米軍基地返還運動 全国共同対策委員会
五一四記念日韓共同行動 仁川準備委員会
五一四記念日韓共同行動 平澤準備委員会
五一四記念日韓共同行動 大邱準備委員会
民主主義民族統一全国連合 米軍基地対策委員会
駐韓米軍犯罪根絶のための運動本部

韓米行政協定改正委員会
民族正気守護協議会
PCDS韓国本部(以上韓国)
BAYAN(新民族主義者同盟)(フィリピン)

労働法改悪と対決し 各地で闘うメーデー

東京 日比谷メーデー

全労協など二万人が結集

五月一日、全労協を中心とした第
六八回日比谷メーデーがたたかわれ
た。今年のメーデー参加者は昨年を
大きく上回り、二万人を結集したた
かうメーデーとなつた。連合は代々
木公園でいつもどおりのお祭り騒ぎ
に終始し、沖縄という言葉の一言も
でない。

の改悪を弾劾し、五月軍用地期限切れにむけたたかいを呼びかけた。韓国民主労総からは連帯のメッセー
ジも届き、「日本労働者のゼネスト
支援の感謝と社会の変革、労働法改
悪に反対する闘争を引き続きたか
う」決意が表明された。

た。とりわけ連
保強化、米軍用
緩和・行革推進
と労働者の生活
の中で、これに
集した傘下の労
求に応えること、
でお茶を濁した

合のメーデーが、安地特措法改悪、規制という侵略戦争遂行破壊攻撃が強められ何ら対決しえず、結労働者の切実な生活要ができず、イベントなどをみるならば、

デーは成果をおさめたし
は、日本における階級
再構築を、下層プロレ
タたかいを基礎に、ア
の一部としての日本労
として目指している。
ら第六八回日比谷メー
日本における労働運動

といえる。我々的労働運動のタリアートのジア労働運動効運動の前進かかる見地かデーの成功を、の前進の一歩

労働者の連帯」一側の者の回紹で生活と権利、平和と民主主義を守る」ことを表明した。山崎全労協議長の團結ガンバローでめぐくくり一つのコースでデモが行われた。

者に対する掠奪・収奪の攻撃が強められ、労働者内部に矛盾が蓄積されながらもこれと充分に結びでできず、有効な反撃戦を組織しえないのである。しかしながら国際連帯と中小未組織の組織化によって、この力が弱る傾

それのみならず安保・沖縄闘争においてもアジア人民との連帯を通じたたたかいの前進、外国人労働者の権利擁護・中小未組織の組織化を前面に掲げ、従来の総評労働運動に示された日本の労働運動の一国主義・本土主義的限界を克服するストーリーが、これが掲げられたことの意義もまた大きい。



労働法改悪反対！米軍基地撤去を訴えた日比谷メーデー（東京）



赤と緑のメーデー（名古屋）

左派労組と市民運動が結集

愛知 赤と緑のメーデー

五月一日、名古屋において「赤と緑のマーチ」が約一〇〇名の結集

緑のメモリー』か緑——〇〇名の結集

いう不退転の決意を表明した。

五月一日、名古屋において「赤と

「緑のメーデー」が約一〇〇名の

第503号

集会は、午前九時スタートという早朝の集会にもかかわらず、九時前に約九割以上が参加して集中した集会となつた。

オープニングは、労働歌で始まり、大阪全労協議長前田氏の主催者挨拶、続いて招待者挨拶として辻元清美、旭堂小南陵氏ら国会議員に市会議員、労働弁護団、関西沖縄の会が登壇した。そして争議組合紹介してゼネラルユニオンの各分会、ラジオ・メーターワーク組、関生支部他が登



関生、全港湾などが参加した中之島メーテー(大阪)



第7回地域メーテー（京都）

大阪 中之島メー デー

二千人が結集し盛りあがる

の候補地が決定されることもあって、反万博の取り組みに対する提起が行われた。沖縄の特措法改悪に反対する決議も行われた。今年の大きな地域問題・社会問題に対して、このメールを機会にたたかっていくことを参加者一同確認した。

で開催された。このメーデーは、九年より毎年開催され、名称の赤は労働運動、緑は自然環境を重視し生活を見直すエコロジー、この両者の視点をドッキングさせて命名された。そこには大きな連合体に加わらない独立した労働組合と地域で市民運動を展開している労働者や市民が結集している。集会のスローガンも労働問題にとどまることなく、地域の問題や社会問題を取り上げている。労働者・市民の権利や人権などが無視されつつある現状に対してノーと言えるメーデーを目指している。

いることが報告され、権利を守るためにたかいの必要性が提起された。

次いで発言した笛日労からは、昨年右翼からの労働組合潰し攻撃をはねのけ、現在は名古屋市当局の無責任な対応に対するたかいを行っていることが報告された。自立労連タカラブネ労組からは、沖縄特措法改悪・日米安保の強化に対し、アジア各国の人民と連帯して取り組む

議については デモ解散後、代表団によりJR西日本本社に抗議行動・決議文提出することもあわせて確認された。

地域共闘の発展をかちとる

大阪 中之 三千人が結集

島メーデー

メーデーの総括会議で恒常的なネットワークにしていくとの確認で、以降、ユニオンネットワーク・京都を作り様々な争議支援を行ってきました。いま日本政府は、米軍用地特別措置法改悪に示されるように、日米安保の強化を進めようとしている。労働分野においても規制緩和・労働者の権利を奪いさる攻撃がかけられている。今こそ、たたかう労働組合の力を合わせ地域共闘を進めて行こう」という挨拶がなされた。来賓と

労働分野の規制緩和反対、未組織の組織化、争議支援、外国人労働者への連帯、沖縄の反戦地主や韓国民主労総への連帯を訴える集会宣言の採択と團結がんばろうが行われた。デモに出発してすぐ、京都コンピュータ学院を包囲して「京都コンピュータ学院は不当解雇を撤回せよ」のシュプレヒコールが行われ、初夏を思わせる日差し中で、東本願寺まで元気良くデモを行った。

シターナシヨナルのメンバーも参加し、連帯の挨拶と外国人労働者のおかれの劣悪な労働条件を改善していくたたかいを行う決意表明が行われた。

七回目を迎えた京都地域メーデーが、一七〇人の参加で行われた。場所は、七年前に四人の組合員全員を解雇した京都コンピュータ学院駿府校の前に位置する公園で集会が持たれた。

展をかちとる

して新社会党からの挨拶、中之島メーデーからのメッセージ紹介に続き、争議組合からの報告として、きょうとユニオンから解雇争議のたたかい、京都コンピュータ学院労組、京都郵政労働組合からは当局から大規模な不当配転攻撃がかけられようとしていることについてのアピール

部の武氏より、「国鉄闘争勝利をめざす特別決議」を国労の矢嶋氏より受け、一括採択した。国鉄闘争の決議については、デモ解散後、代表团によりJR西日本本社に抗議行動・決議文提出をすることもあわせて確認された。

メイン・スローガンの確認をして、梅田までのデモに出発した。デモ・

コースの途中、米領事館前では在沖米軍基地をはじめ全ての在日米軍基地撤去を求めたシュプレヒコールを高声にあげ、大阪中郵前までのデモを貫徹した。

デモ後に準備された交流会は、当初予定していた三〇〇名を上回る参加のもと、労働歌やあいさつなどが続き、大いに盛り上がった。